

## 第30回 緑の市民懇話会 会議録（要旨）

1 日 時 平成26年 1月 10日（金） 13:30～15:00

2 場 所 市役所 401・402 会議室

### 3 出席者

（委員） 久座長、下村委員、磯貝委員、稲葉委員、大鋸委員、倉品委員、児玉委員、林原委員、日高委員、山田委員、岩井委員、北島委員

（事務局） 山本都市整備部長、中井みどり景観課長、川端みどり景観課課長補佐、中川花のまちづくりセンター所長、巽みどり景観課緑化推進係長、大澤みどり景観課

### 4 議事内容

1 開 会

2 案 件

（1）「花と緑の景観まちづくりコンテスト」について

（2）市民の森事業について

（3）その他

### 5 議事録

（1）「花と緑の景観まちづくりコンテスト」について

#### **[事務局説明]**

・別紙「資料1」「資料2」にて説明。

以前から現地審査を行う時期に関して問題があった。

次回から応募受付期間を4月～5月末までとし、現地審査を年4回（5月、8月、10月、12月）とする案を出させていただいた。

#### **[委員意見等]**

・コンテストの応募受付期間が4月1日～5月31日までとあるが、春の現地審査の4月、5月についてはどのように行うのか。（発言）

春の時期の審査対象として5月末までの受付を考えている。月ごとに締め切るなど受付期間中一定の間隔で区切り、随時見に行くようにしたい。

・年間4回審査があるので、先決めて冬なら冬を目指したうえで春に申し込みがあるかもしれない。10月、12月を目指すなら、時期をずらして申し込みをしてもいいのではないか。申し込み期間を春の2ヶ月に限った理由は。（発言）

春に一番多く応募して欲しかったからである。また、助成金の利用者がコンテストに応募

されるケースが多くみられることもあり、助成金の支払い決定時期を考慮してということもある。

・「資料 1」審査・表彰までの流れについて、4 回現地審査をうけて、4 回の確認が終了してから総合して審査するのか、それともその都度審査を行い、ポイント制などで最終的にまとめるのか。(発言)

ポイント制、項目別に点数をつけるなど評価を蓄積する方法については、透明性は高いが後で判断し直す際、記憶があいまいになり不正確になる。四季を通した総合評価で決めたい。

・名所やバラなどのようなところは、一定期間のみ評価されがちである。(発言)

・年中同じ花が植えられている場合、あるいは名所のようにひとつの花が有名で、他の季節はこれといったものが無いという場合がある。花が無い時にみずばらしい風景が長いというのはいかがかと思うが、景観というのは必ずしも花だけではないので、ほかの緑や木が整備されているならいいのではないか。その場合、花よりも花木の方が得点が高くなる。(発言)

・このコンテストは 1 年を通じてきれいなまちづくりに取り組んでいる事例を対象にしている。花の有無にはこだわらず、花が終わっても次に向けて整備をしているなども評価の対象になる。(発言)

・応募時に通年の計画を出してもらい、それに応じて動くということか。緑化事例という主旨なら通年ということになる。(発言)

計画はいらない。通年美しさを保っているということが評価されるので全箇所、四季 4 回審査していただきたい。

・参加経験者などのご意見をアンケートなどでいただきながら決めていってもいいのではないか。(発言)

・1 年間受け付けるとした場合、現地審査なしで書類審査のみにするのはいかがか。(発言)

現地に行かないのであれば審査方法を変える必要がない。花の美しい時期に現地審査をしなければならぬという皆さんの意見から原案を変更する必要が生じた。

まちづくりという観点からでは写真では同じようにきれいでも、実際の現場が周囲からよく見える場所であるなど、評価が高くなる可能性もあるため、現地で審査する必要がある。

・年 4 回審査というのは大変ではないか。30 か所のエントリーで 120 回になるが。(発言)

応募件数にもよる。事務局は随時現場を訪れ写真を撮り、現地審査員にはそれからまわっていただく。想いとしては応募されたところはすべて 1 年を通じて見に行かなければいけない。

・班分けにするのはいかがか。帰ってきて報告しあうということ。(発言)

写真と報告を後でいただくということになる。

・全員で全箇所は現実には難しいのではないか。人数を絞ってすべてをまわるか、全員で分担してまわるかのどちらかだと思う。(発言)

・花であれば 1・2・3 月はどうなるのか。1 年を通じてならその間に残り 1 回最終的に審査に行く必要があるのではないか。(発言)

・現地審査の日程については、オープンにした方が良いのではないか。(発言)

・エントリー用紙の工夫が必要だ。応募時に対象となる場所がよく分かる地図や写真をつけてもらい季節ごとの予定を書いてもらう。こんなことをやってみたいなど意気込み等もある

とよい。(発言)

・“売り”を言ってもらうのは重要だ。何を見てもらいたいのかが明確になる。(発言)

・応募用紙に書き方見本をつけたらいいのではないか。アピールコメントを記入してもらおう。

(発言)

・4回分の申し込みがエントリーだけであるならもっと早く応募してもいいのではないか。

(発言)

・このコンテストの結果や状況を市民に公開するのか。ここに行けば賞を取った方のお花を見ることができる、というようなものが必要になってくるのではないか。(発言)

そもそもの目的は何か。そこまでは望んでいないと思う。今のところ市民に楽しんでもらいたいという段階である。そう考えていくと、当初の目的は達したのではないかということになる。では、この事業をいつまで行うのかという問題になってくる。

・今後の応募件数をみて動きながら考えるということでもいいか。(発言)

本日はたたきの話し合いなので、結論を出すのではなく、いろいろ意見を出していくということでもいいと思う。

・募集について「資料1」と「資料2」の内容が違う部分が見受けられるので、きちんと整合性を持たせていただきたい。(発言)

・審査方法や総合評価(4回分)の基準などをきちんと決めないといけない。(発言)

確認して修正する。

## (2) 市民の森事業について

### [事務局説明]

・別紙資料にて説明

土地所有者に承諾を得たので報告する。

傾斜は緩やかな地形で、落葉樹と常緑樹の混交林である。

2月に測量を予定しており、その後、ワークショップ形式にて整備方針を検討する。

### [委員意見等]

・自治会長には了解をもらっているのか。(発言)

了承済みである。

・税の免除は完成してからなのか、契約がまとまってからなのか。(発言)

契約ができれば、減免措置の手続きを進めたい。

・教育委員会にも報告をしてはいいかがか。今回の事業を環境教育に生かして欲しい。この場所はそういう意味でモデルとなるいいところだと思う。(発言)

・学習指導要領でも環境教育に重点をおいている。学校の先生も悩んでいるようだ。そのあたりも探って、事業を生かし、いいモデルになればいいのだが。(発言)

・駐車場など周辺住民の苦情とならないようにしなければいけない。せっかく良いことをしようとしているのに苦情がきてしまってはもったいない。(発言)

バックアップをよろしくお願いします。

( 3 ) その他について

**[事務局説明]**

・鹿ノ台自治連合会( E C O K A 委員会)が環境省主催の第8回「みどり香るまちづくり」  
企画コンテストで、日本アロマ環境協会賞を受賞された。

< 次回の日程について、決まれば連絡する >